

*:

1 ポートエッセイ

— 感染拡大防止と経済活動再開の両立を目指して —

～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一～

*:

今回の新型コロナウイルス感染症の経済への影響は、リーマンショックを超えると言われており、極めて厳しい状況にあると認識している。

貿易においては、輸出が急速に減少し、5月の貿易統計(財務省発表)では、輸出が前年同月比でマイナス28.3パーセントとなっている。

輸入においては、下げ止まりつつあるとのことだが、同じ5月の前年同月比でマイナス26.2パーセントと厳しい状況には変わりはない。

国はかつてない規模の財源を捻出し対応を図るため、特別定額給付金の支給や雇用調整助成金など新型コロナ対策を打ち出している。本市においても6月定例会で約71億円の新型コロナ対策を追加補正したところであるが、国や地方自治体の各種施策の成果が一日も早く浸透し、厳しい状況から脱却し、回復に向かうことを強く期待している。

さて、新型コロナウイルスに対応するため、これまでと違った働き方や新しい生活様式などを取り入れた。時差出勤、在宅勤務、テレワークなど、これまで日本社会の課題であったものの、進展しなかったものが、社会実験のような形として多く体験できたといえる。

感染症に対峙するため、人との接触を避け、遠方から連絡を取り合う手段として、特に、ICTの活用は目覚ましいものがあつた。政令指定都市市長会では初めてWEB会議が開催され、私も新潟に居ながら会議に参加した。ICTを活用しながら、感染拡大防止のために取り組んできた「人の移動や接触機会を減らす」方式が継続される可能性は高く、今後もICTの活用が、更なる進化を遂げることは間違いない。こうした動きは、仕事や生活において、利便性を高め、効率化を図るためのチャンスでもある。

これからは、感染拡大の防止策を講じながら、本格的な経済再生に向けて活動を本格化させていくこととなる。既に、飲食店等でもソーシャルディスタンスを確保した座席の確保や換気を行い、スーパー等でも飛沫防止のスクリーンを設置するなど、社会全体で感染防止対策に着実に踏み出している。

再び感染が拡大すると、経済が回らなくなり、社会が停滞してしまう。本市も引き続き、PCR検査の拡充や医療提供体制の確保をしっかり行い、気を緩めることなく、第二波へも備えていかなければならない。

*::~

2 トピック

*::~

●写生大会 第17回 K O B Eみなとの絵大賞に

神戸港湾事務所所属 海面清掃兼油回収船「Dr. 海洋」が参加

(近畿地方整備局 神戸港湾事務所)

令和2年6月20日(土)に「写生大会 第17回 K O B Eみなとの絵大賞」が神戸港中突堤周辺で開催されました。この写生会は、NPOグラウンドアンカーが主催し、子どもからお年寄りまでが一斉に神戸港の風景を描く年齢層の広い参加者で賑わう全国でも珍しい写生会です。今年は、

新型コロナウイルスの影響で、不要不急の外出自粛要請等で開催が危ぶまれましたが、当日は、天候にも恵まれて、写生会参加者やカップル、家族連れの姿が見受けられ神戸のみなとに賑わいが戻りつつありました。

神戸港湾事務所からは、被写体として海面清掃兼油回収船「Dr. 海洋」が参加しました。

また、新型コロナ感染拡大防止対策として、

- ① 例年行っている海面清掃兼油回収船「Dr. 海洋」船内の一般公開は中止、
- ② 事業説明等のパネル展示は3密を避けるため間隔を空けて展示、
- ③ スタッフは、マスク、手袋着用(パンフレット配布時)の取り組みを行いました。



コロナ対策も準備万端！



写生会の様子

●敦賀港でコンクリートブロックに絵を描こう！！

(福井県 嶺南振興局 敦賀港湾事務所 工務課)

令和2年6月22日(月)、港や土木工事に親しんでもらう目的で、離岸堤工事に使用するコンクリートブロックに絵を描いてもらう取り組みを行いました。お絵描き体験には現場近くの松乃栄保育園の園児23名が参加しました。

ブロックは高さ1.5メートル、幅4.5メートル、奥行き2.5メートルで、園児は広大な『キャンパス』に様々な色のペンキを使い、動物や花などを描きました。ブロックは8月下旬に工事に使われ、海中に沈められます。

今回、保育園側と十分な協議を行い、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、密にならないよう2班に分けて実施、体温チェック、アルコール消毒、刷毛の貸し借りが無いよう1人当たり5本用意、ポリカーボネート板で絵を描く場所を区切り、距離をとるなどの対策を行いました。コロナ対策をした現場見学会の新しい見本になれば幸いです。



絵を描く園児



園児集合写真



ポリカーボネート仕切り版

●伏木富山港「みなと出前講座」の開催

(北陸地方整備局 伏木富山港湾事務所)

6月11日(木) 富山県内の小学校において、港の役割や日本の貿易について学習する「みなと出前講座」を開催しました。伏木富山港湾事務所では、例年地元自治体と連携して、地元の小学生を対象に「伏木富山港」の見学会と併せて「みなと出前講座」を開催していますが、今年度は新型コロナウイルスの影響により見学会が中止となったため、当事務所の職員が小学校を訪問して授業を行う「みなと出前講座」のみを開催しています。

当講座は、「みなとの役割」や「日本の貿易」、地元の港「伏木富山港」等を学習する内容となっており、説明の途中でクイズを交えるなど、多くの児童に関心を持ってもらえるように工夫しています。講座では、児童が元気良くクイズに回答したり、給食の食材や衣料など身近なものが輸入されていることを知り驚いていました。

今後も多くの児童が「みなと」に関心を持っていただけるように、わかりやすく親しまれる広報に取り組んでまいります。



出前講座の様子



クイズに回答する児童たち

●『四国港湾ビジョン2040 ～「効・創・適」新しい港の様式～』を策定

(四国地方整備局 港湾空港部 港湾計画課)

四国地方整備局では、10年から20年後の将来を見据え、「港湾による物流・人流の高度化」と「港湾空間の活用による付加価値力の創出」により四国の持続可能な発展を実現するため、今後特に推進すべき施策（3本柱）、「①労働力不足に立ち向かう港湾」、「②地域に新たな価値を産み出す港湾」、「③自然環境の変化に対応する港湾」等をまとめた『四国港湾ビジョン2040～「効・創・適」新しい港の様式～』を令和2年6月30日に策定しました。

3本柱の施策としては、次の取り組みを進めていきます。

柱①：フェリー・RORO船の大型化及びそれに伴うヤード不足等に対応するため、立体化ターミナルや港湾空間の再編等の施設整備、及びリモート化・省人化等の技術の導入促進等

柱②：ヒトやモノの交流促進等により既存の産業に新たな付加価値を創出するため、臨海部における定住・交流人口の拡大、及び新たな設備投資の誘発に向けた港湾空間の確保や港湾機能の強化・再配置等

柱③：南海トラフ地震や気象災害への対応及び「SDGs」等の地球環境に関する国際目標に貢献するため、臨港道路の嵩上げ等による多重防護、災害の規模に応じた段階的な対策の検討、及び浚渫土砂や産業副産物等の利用促進等

今後は、3本柱の施策の効果を最大限発揮するために、各柱における施策を連携させつつ、各港の特徴や地域性等の実情に応じて、国、自治体、民間事業者等が一体となり、施策の着実な実施を図っていきます。

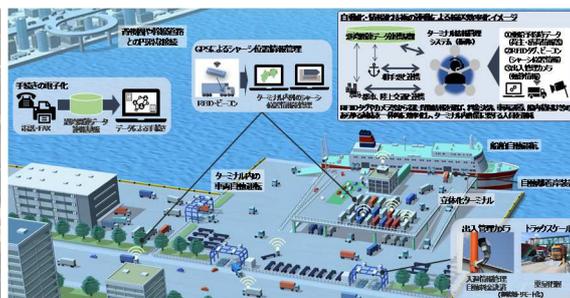
詳しい情報はHPをご覧ください。

・四国港湾ビジョン検討委員会

<https://www.pa.skr.mlit.go.jp/general/policy/vision.html>



会場全景



①労働力不足に立ち向かう港湾イメージパース



②地域に新たな価値を産み出す港湾イメージパース



③自然環境の変化に対応する港湾イメージパース

